

学校におけるICT環境の整備等について

佐藤 秀行



〔質問〕県総合教育センターで作成されたタブレット端末活用動画集「十（プラス）タブレット」が、学習デジタル教材コンクールで「文部科学大臣賞」を受賞した。

この動画集のコンテンツとコンクールの目的等について伺う。

〔答弁〕【教育長】この「十タブレット」は、教員のICT活用指導力を目指して作成した教員用の活用動画集である。

その目的は、学校教育におけるデジタル機器の活用と教育の情報化の進展に貢献するというものである。

〔質問〕今年度、タブレット端末82台が各小中学校にそれぞれ何台ずつ配備されたのか。

また、今後増やす計画はあるのか伺う。

〔答弁〕【教育長】各学校に基本2台で、さらに、児童生徒数に応じて傾斜配分をしている。

現段階では、活用状況をしながら、各学校にあるパソコンの更新時期等を踏まえて考えていきたい。

〔質問〕研修等のためにも、先生方にタブレットを1台ずつ配備することが望ましいと考えるが、見解を伺う。

〔答弁〕【教育長】今のところは考えていない。

その前に、教員のタブレット活用能力をもう少し上げていく必要があると考える。

〔質問〕各小中学校のすべての教室に電子黒板等を設置するなど、さらなる学習環境の整備が必要と考えるが、

見解を伺う。

〔答弁〕【教育長】将来的に、各学校に授業形態に応じて1学級が行えるような台数整備ができればと考える。

〔質問〕今後のICT活用指導力の向上を目的とする研修への取り組み・推進について伺う。

〔答弁〕【教育長】専門研修員の先生も活用しながら、コンピュター活用推進委員会を組織して進めている。

◎市道白石駅歩道橋線について

〔質問〕白石駅歩道橋線は、だいぶ老朽化が見られる。駅前環境整備・美化等のためにも今後どのように進めていくのか伺う。

〔答弁〕【市長】昨年度、白石駅東西自由通路検討グループを設置した。駅舎との一体化の方向性で検討しているが、いろいろ課題もあるため、今後も検討を続けていく。

台風災害について

大野 栄光



本年8月、三つの大きな台風が通過した。山麓に降った大量の雨は鉄砲水となり、道路を決壊し、木をなぎ倒し流木となり民家や橋を壊し、介護施設の近くまで流れ着いた。

大きな施設災害を市内で発生させないための災害対策について伺う。

〔質問〕市道三住線の橋に流木が堆積し、橋を壊し、道路が寸断された。500メートル下流には介護施設や民家があり、自力避難のできない人たちがいる。

そばの小さな橋は、間口が狭く、流木が流れ着いたら一気にダム化すると思われる。介護施設は平屋で、

避難場所もなく被害が予想されるが、対策などの所見を伺う。

〔答弁〕【市長】この施設でも、それぞれ避難マニュアルがあり、どのような避難に対応しているのが大切であると考えている。

また、地元消防団の河川巡回による水位監視の情報により、的確な判断をすることが不可欠であると考えている。

その上で、避難準備情報や避難勧告等の発令を、いち早く施設の長や自治会長に連絡して、指定避難所への避難を呼びかけている。

今後、そのようにしていくことが大切であると考えている。

〔質問〕今回被害にあった市道三住線大岩橋と市道金成線は、農作業

道として重要な生活道でもある。

そこで、早期復旧が望まれるが、所見を伺う。

〔答弁〕【市長】今回被災した両市道については、国の災害復旧事業の災害査定を受けるため、提出資料等の準備を進めている。

一日も早い復旧と市民生活の正常化に向け、鋭意取り組んでいる。

◎自主防災組織について

〔質問〕自分たちの地域は自分たちで守る趣旨のもと、自治会長を先頭に組織された自主防災組織は、大震災以降、地域活動を多岐にわたりに行ってきた。

そこで、災害時の活動の身の安全補償はどのようにになっているのか伺う。

〔答弁〕【市長】万が一の場合、市が加入している賠償保険で保険金等が支給されることになる。